



▲食べているときの表情やコメントが審査基準に

ヤ・シイ秋の風物詩

11月23日(日)、夜須町のヤ・シイパークでヤ・シイの秋まつりが開催されました。会場では、名物のトラックいっぱいに積まれた大根・カブの販売やステージイベントが行われ、多くの人でぎわいました。

今年初開催となった『夜須町特産品うま食いコンテスト』は、夜須町の食材をいかにおいしく食べられるかを競う企画。出場者は夜須産のトマトやスイカ・メロンを頬張り、「みずみずしい!」「今まで食べた中で一番おいしい」と感想を言いながら、審査員を務めた生産者らにアピールし、会場は大盛り上がりでした。

野令和7年度 坂本教育賞
市中学校が最優秀校に!

11月29日(土)、優れた教育を実践する県内の小・中学校をたえたる「坂本教育賞」(高知県文教協会主催)の授賞式が行われ、野市中学校が最優秀校に選ばされました。

野市中学校は、生徒指導と学力向上を研究の2本柱に位置付け、教育DXを活用した学習者主体の授業づくりに取り組んでいます。今回の表彰では、これらの取り組みを全教職員が意図的・組織的に推進したことにより、不登校生徒数の減少や各種学力調査での改善が図られたことが成果として評価されました。

教育サポート賞授賞式



▲表彰状を受け取る野市中学校の森田真弘 校長先生(右)



▲一生懸命に木を切る子どもを見守る高橋成樹さん(右)

自然と触れ合い学ぶ体験
親子森林教室 きのこの原木作り

11月30日(日)、香我美町にある山で親子森林教室が開催され、4組の親子が参加して、きのこの原木作りに挑戦しました。

香南市出身・在住の山師である高橋成樹さんの指導のもと、クヌギの木を90cmに切る作業からスタート。クヌギの木は想像以上に硬かったようで、親子で交代しながら四苦八苦していました。子どもたちは「自然の中での作業は楽しい!」「体がポカポカ温まつた!」と満面の笑みで話していました。今回切ったクヌギの木を数か月間乾燥させたあと、参加者たちは「きのこの駒打ち」を行います。

オブジェの向こう側には
レトロで不思議な世界が!

30 第30回 赤岡 冬の夏祭り
年間ありがとう!

12月6日(土)・7日(日)、赤岡町の横町商店街で、香南市の風物詩「冬の夏祭り」が開催されました。

1995年に始まった「冬の夏祭り」。実行委員の高齢化や人手不足などの理由から、30回の節目を迎えた今回が最後の開催となりました。「赤岡へ帰ろう」が今年のテーマ。横町のゆるやかな坂道には、テーマに合せた手作りのダンボールアートなどが並び、例年以上の人出でぎわいました。仮装した人も多く、最後の「ふゆなつ」を名残惜しみながら満喫していました。



▲仮装コンテストの参加者たち。古くからの「ふゆなつ」ファンも!

濱田知事、絵金蔵・弁天座を訪問
「濱田が参りました」

高知県では、濱田知事自らが市町村を訪れての視察や意見交換を行っています。10月31日(金)に赤岡町を訪問。絵金蔵で学芸員から芝居絵屏風の解説を受けたのち、弁天座で廻り舞台など仕掛けを見学、衣装を身にまとっての歌舞伎も体験しました。

その後、現状と課題等について両施設の関係者らと意見交換を行いました。知事と直接話ができる貴重な機会とあって、参加者からは絵金を通じた地域の魅力などについて、積極的に声があがっていました。



▲歌舞伎体験を楽しむ濱田知事(左)と清水総務部長(右)

受け継がれる伝統芸能
浅上王子宮「山北棒踊り」

11月18日(火)、香我美町山北にある浅上王子宮で神祭が行われ、地域の伝統芸能が次々と奉納されました。

最大の魅力は、県保護無形民俗文化財にも指定されている「山北棒踊り」。土佐藩主に仕えた山内規重(のりしげ)が山北に蟄居(ちつきよ)※を命じられた際、家臣が暇つぶしに披露した棒術が始まりと言われており、300年を超える歴史があります。

当日は、市内外から多くの人が訪れ、圧巻の棒術に感嘆の声をあげていました。

※蟄居…江戸時代の刑罰。居宅にこもることを命じられ、外出を禁じられた



▲「サイ!サイ!」という掛け声のもと披露される棒踊り

健 第20回香南市高齢者クラブ体育大会
健康増進、仲間づくり、そして生きがいを!

11月19日(水)、野市総合体育館で第20回香南市高齢者クラブ体育大会が開催され、市内の各高齢者クラブから100人を超える参加者が集まり、競技を行いました。

高齢者の健康増進や、地域でのつながりを深めることなどを目的に開催されたこの体育大会。バドミントンラケットにテニスボールを乗せて走る「スプーンリレー」や、スリッパを片足で飛ばして飛距離を競う「とばしの達人」など、高齢者の体力に合わせた無理のない9つの競技が行われ、参加者たちはいい汗を流していました。



▲「スプーンリレー」。順位を競う場面では手に汗握る場面も



狐 赤岡町 きつねの嫁入り行列
たちが赤岡のまちを練り歩く

11月22日(土)、狐に扮した人々がちようちんを片手に赤岡のまちを練り歩く「狐の嫁入り行列」が行われました。

この行事は、平成8年から赤岡町の本町通りで不定期に開催されているもので、今回は第9回目(2年ぶり)となります。同日のイベント「狐の夜市」の一環として、実行委員会により開催されました。

夜道をゆっくりと進む、顔を真っ白に塗った和装姿の狐たち。時折、狐の本性を現すかのように、一齊に身をかがめ、前足を曲げて立ち止まる姿は、見物人の心を妖しく惹き付けていました。